

所属・資格 社会科学・教授

申請者氏名 菅野 剛

研究課題		情報社会における格差と人々のつながりに関する実証的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	急速に発展する情報社会のあり方を分析・考察する上で、社会構造で特に重要な社会階層と、社会的分業という人間の本質の一側面を表す社会的ネットワークの視点から研究を行う。統計学、データ分析についての新たな動向について情報収集を行い、計量的分析手法について研究を進める。分析を適用する具体的対象としては、社会構造や人々の社会意識に注目し、社会階層や格差について実証的・計量的な研究を行う。記述的なデータ分析を進めるとともに、多変量解析の適用を試み、様々な視点からデータの特徴を、より正確に把握できるようにつとめる。
	研究の結果	地域調査、学生意識調査、その他の調査を実施した。これらのエディティング、コーディング、クリーニング、ロジカルチェックなどを行った。データ・ハンドリングが可能なデータについてはデータ分析を行い、基礎集計を確認し、変数間の相関構造について様々な分析手法を適用した。一つのデータだけに依存することなく、いくつかの種類 of データを用いることで、多様な視点からの分析を心がけた。データの収集、加工、分析の一連のプロセスを何度も行う中で、より効率的な処理を行うための工夫が切実な課題となった。情報処理、データ分析の環境構築・維持には大きなコストがかかる。このため、クラウド環境の利用など、いろいろな試行錯誤を行い、一定の成果と今後の展望を得ることが出来た。社会の変化と相まって、調査環境、情報処理技術の変化、オープンソースの発展など、教育・調査研究を取り巻く環境は急速に変わりつつある。
	研究の考察・反省	地域調査、学生意識調査、その他の調査のための検討、準備、実施を行った。データの種類、特徴は様々であり、取扱いの仕方の幅を広げていくことが重要となった。このために、情報処理、統計学、プログラミングなど、様々なことを取り込んでいく必要があり、すぐに実現できるものばかりではなかった。今後も多様な種類のデータを扱うことにより、先入観にとらわれることなく、柔軟な見方と幅の広い視野を維持しながら、長期的な視野に基づいて、新しいことを取り入れながらデータ分析を行うことが重要であると考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 (1) 研究期間中に成果を出すことができなかった理由 社会調査の準備、社会調査の実施を行っているため。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		(2) 次年度以降の成果発表の予定 上記の事柄について作業を進め、これらをもとにした研究成果を現在取りまとめ中である。